

小学校 図画工作科 事例を通じた評価の具体例

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 pp.71-78

図画工作科 事例3
キーワード 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

題材名
花に心をこめて(第4学年)

内容のまとめり
第3学年及び第4学年「絵や立体, 工作」「鑑賞」

1 題材の目標

作品を飾りたい場所の様子や和紙を染めて感じたことから、表したいことを見付け、紙類や絵の具についての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表し方を工夫して表すとともに、作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、進んで染めた和紙で花を表現したり鑑賞したりする活動に取り組む。



「指導と評価の一体化」のための
学習評価に関する参考資料

2 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の感覚や行為を通して、形や色などの組合せによる感じが分かっている。 ・和紙などを適切に扱うとともに、紙類や絵の具についての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・形や色の組合せによる感じを基に、自分のイメージをもちながら、作品を飾りたい場所の様子や和紙を染めて感じたことから、表したいことを見付け、表したいことや場所の様子などを考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。 ・形や色の組合せによる感じを基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。 	<p>つくりだす喜びを味わい進んで染めた和紙で花を表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。</p>

3 材料・用具

和紙(障子紙), 絵の具, トレー, 筆, セロハンテープ, ホチキス, はさみ, 木工用接着剤, 作品カード, ワークシートなど

※作成手順は全県教育課程説明会資料を参考にしてください。

4 指導と評価の計画(6時間)

時間	ねらい・学習活動	評価の観点、評価方法等				備考		
		知	技	思	態			
		知識	技能	発想や構想	鑑賞			
1 2	・作品を飾りたい場所の様子から、どんな花を表していきたいか考え、材料の和紙を絵の具で染める。					↓	1, 2時間目は、「技能」と関連付けて、主体的に学習に取り組む態度」の視点で児童の学習状況を把握し、指導に生かす。	
3 4	・染めた和紙の色や質感を生かして、飾りたい場所に合う花をどのように表すかを考えて表す。			○			3, 4時間目は、「思考・判断・表現（発想や構想）」と関連付けて、「主体的に学習に取り組む態度」の視点で児童の学習状況を把握し、指導に生かす。	
5	・場所に合う表したい花になるように表し方を工夫して表す。	◎ 観察 対話 作品	◎ 観察 対話 作品				5時間目は、「知識・技能」と関連付けて「主体的に学習に取り組む態度」の視点で児童の学習状況を把握し、指導に生かす。	
6	・友人と互いの作品を見合い、よさや面白さ、表した いこと、いろいろな表し 方について感じ取ったり 考えたりし、見方や感じ 方を広げる。				◎ 観察 対話 作品 作品カード ワークシート		◎ 観察 対話 作品 作品カード ワークシート	6時間目は、「思考・判断・表現（鑑賞）」と関連付けて「主体的に学習に取り組む態度」の視点で児童の学習状況を把握し、指導に生かす。 さらに、「主体的に学習に取り組む態度」は、活動全体を通して把握し、最後に記録に残す。

○・・・題材の評価規準に照らして、適宜、児童の学習状況を把握し指導に生かす。

◎・・・題材の評価規準に照らして、全員の学習状況を記録に残す。

5 指導と評価の実際(6時間)

時間	ねらい・学習活動	評価	
		評価の観点 評価方法等	評価の実際
1	・作品を飾りたい場所の様子から、どんな花を表していきたいか考え、材料の和紙を絵の具で染める。	技 ○	<ul style="list-style-type: none"> ・「技能」の視点で児童の学習状況を把握し、指導に生かした。 ・「技能」と関連付けて「主体的に学習に取り組む態度」の視点で、進んで和紙を染めている様子を観察する、つぶやきを捉えるなどして児童の学習状況を把握し、指導に生かした。
2		能 ○	
3	・染めた和紙の色や質感を生かして、飾りたい場所に合う花をどのように表すかを考えて表す。	思 ○ (発想や構想)	<ul style="list-style-type: none"> ・「思考・判断・表現(発想や構想)」の視点で児童の学習状況を把握し指導に生かした。 ・「思考・判断・表現(発想や構想)」と関連付けて「主体的に学習に取り組む態度」の視点で、進んでどのように表すか考えながら表している様子を観察する、つぶやきを捉える、作品を見るなどして児童の学習状況を把握し、指導に生かした。
		能 ○	
4		思 ◎ (発想や構想)	<ul style="list-style-type: none"> ・「思考・判断・表現(発想や構想)」の視点で児童の学習状況を把握し、記録に残した。 ・「思考・判断・表現(発想や構想)」と関連付けて、「主体的に学習に取り組む態度」の視点で、進んで表したいことを見付けどのように表すか考えながら表している様子を観察する、問いかける、作品を見るなどして児童の学習状況を把握し、指導に生かした。
		能 ○	



家のどこに飾るか考えながら、自分の表したい花の色になるように和紙を染めている。



花にどんな心を込めたいのか、どんな花の形にするか、全体をどんな感じにするか、場所に合うようにどんな飾り方にするのかなどを考えながら、手を働かせて材料の和紙関わっている。



手で和紙の感触を味わいながら表したいことを考え、それをどのように表そうか考えている。



5	・場所に合う表したい花になるように表し方を工夫して表す。	知 ◎	<ul style="list-style-type: none"> ・「知識」「技能」の視点で児童の学習状況を把握し記録に残した。 ・「知識・技能」と関連付けて、「主体的に学習に取り組む態度」の視点で、形や色などの組合せによる感じに着目しながら表したい花になるように表し方を工夫して表している様子を観察する、問いかける、作品を見るなどして学習状況を把握し、指導に生かした。
		能 ○	
6	・友人と互いの作品を見合い、よさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方について感じ取ったり考えたりし、見方や感じ方を広げる。	思 ◎ (鑑賞)	<ul style="list-style-type: none"> ・「思考・判断・表現(鑑賞)」の視点で児童の学習状況を把握し記録に残した。 ・「思考・判断・表現(鑑賞)」と関連付けて、「主体的に学習に取り組む態度」の視点で、作品を鑑賞している様子を観察する、問いかける、作品カードやワークシートを見るなどして児童の学習状況を把握し、指導に生かした。 ・これまで捉えてきた「主体的に学習に取り組む態度」の学習評価を踏まえて、記録に残した。
		能 ◎	



黄緑色と水色の和紙を使っているいろいろな大きさで同じ形の花をつくり重ね合わせて新たな形になるようにしている。



家で飾る場所の壁を思い浮かべながら、山吹色の明るい感じと紫色の落ち着いた感じが合うように考えて全体を見ながら花を表している。

		 <p>手で和紙の感触を味わいながら表したいことを考え、それをどのように表そうか考えている。</p>
5	<p>・場所に合う表したい花になるように表し方を工夫して表す。</p> <p>知 ◎ 観察 対話 作品</p> <p>技 ◎ 観察 対話 作品</p> <p>態 ○</p>	<p>・「知識」「技能」の視点で児童の学習状況を把握し記録に残した。</p> <p>・「知識・技能」と関連付けて、「主体的に学習に取り組む態度」の視点で、形や色などの組合せによる感じに着目しながら表したい花になるように表し方を工夫して表している様子を観察する、問いかける、作品を見るなどして学習状況を把握し、指導に生かした。</p>  <p>黄緑色と水色の和紙を使っているいろいろな大きさで同じ形の花をつくり重ね合わせて新たな形になるようにしている。</p>  <p>家で飾る場所の壁を思い浮かべながら、山吹色の明るい感じと紫色の落ち着いた感じが合うように考えて全体を見ながら花を表している。</p>
6	<p>・友人と互いの作品を見合い、よさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方について感じ取ったり考えたりし、見方や感じ方を広げる。</p> <p>思 ◎ (鑑賞) 観察 対話 作品カード ワークシート</p> <p>態 ◎ 観察</p>	<p>・「思考・判断・表現 (鑑賞)」の視点で児童の学習状況を把握し記録に残した。</p> <p>・「思考・判断・表現 (鑑賞)」と関連付けて、「主体的に学習に取り組む態度」の視点で、作品を鑑賞している様子を観察する、問いかける、作品カードやワークシートを見るなどして児童の学習状況を把握し、指導に生かした。</p> <p>・これまで捉えてきた「主体的に学習に取り組む態度」の学習評価を踏まえて、記録に残した。</p>

対話
作品
作品カード
ワークシート



友人と話し合いながら自分の作品を見て、花の形の面白さ、茎を曲がっているようにしたこと、全体が回るような飾り方ができる形になっているなどの表し方のよさを改めて感じ取っている。



友人の作品を見て色の生かし方や紙を巻くことによって生まれる花の形の面白さを感じ取り、自分の作品と比べて感じ方を広げている。

作品、作品カード、ワークシート



ぜんぜんげんかんにはカラフルな色がなかったので、この花を置くとうすくきれいだと思いました。



たたみに合うようにいろいろな色を使うのではなく2色にしました。結んだり丸めたりして花束のようにしました。




家に入ってすぐの玄関の壁に飾って、花が揺し掛ける感じになるようにしました。太陽のような明るい花になるように回りは細い紙を使ってひらひらするように工夫して表しました。



見た人が「迎えてくれてありがとう」という気持ちになるように明るい青を使って形を工夫しました。

「壁にここに飾るこめて」

名	げんかんのがきをかける前
ひな名	みどり色黄みどり
ひな名	おちつく気持ち



感想
最初はキッチンに飾ろうかと思ったけど、げんかんに飾るといいかなと思った。おちつく気持ちで飾りたいです。

学校や仕事から帰ってきたときに見るとつかれがふっとぶような色にしました。花の形はそれぞれ違う形にしました。

(事後)

家に持ち帰って作品を飾り、保護者などと鑑賞する。ワークシートに飾った様子の絵をかいたり、写真を撮り印刷して貼ったりし、感じたことや考えたことなどを書く。保護者にもコメントをもらった。

6 観点別学習状況の評価の進め方

ここでは「主体的に学習に取り組む態度」の評価について、具体的に示す。本事例の「主体的に学習に取り組む態度」は、つくりだす喜びを味わい進んで染めた和紙で花を工作に表したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている姿を「おおむね満足できる」状況として、観察や対話、ワークシートなどから捉えた。このように「主体的に学習に取り組む態度」に係る観点の趣旨に照らして、「知識及び技能」を習得したり、「思考力、判断力、表現力等」を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価することが重要である。本事例では、「知識及び技能」を習得したり、「思考力、判断力、表現力等」を身に付けたりする場面において指導に生かす評価をし、学習活動全体を通して捉えた主体的に学習に取り組む態度を踏まえて、記録に残した。ここでは学習の流れに沿って説明する。

（１）「思考・判断・表現（発想や構想）」と「主体的に学習に取り組む態度」

「思考・判断・表現（発想や構想）」については、「和紙を触り、握ったり折ったりしながら表したい形を見付けている」「飾りたい場所に合うように花の形を考えている」などの姿を「おおむね満足できる」状況として把握した。

「主体的に学習に取り組む態度」は、「思考・判断・表現（発想や構想）」で捉えた姿と関連付けて、つくりだす喜びを味わい進んで染めた和紙で花を工作に表す学習活動に取り組もうとしている様子を「おおむね満足できる」状況として、主に、観察、対話、作品、作品カードから把握した。

観察では、「材料の和紙を見たり触ったりしながら、どんな形ができそうか考えることに進んで取り組もうとしている」「どのような花にしようか、ワークシートに書くことを通して考えることに進んで取り組もうとしている」などの姿から捉えた。対話では、児童の「私の家の玄関に合うように、明るい感じの花にしたいと思っている」「水色の花にしようと思うのだけれど、花びらはどうしようか考えている」などの言葉から捉えた。

（２）「知識」と「主体的に学習に取り組む態度」

「知識」については、「染めた和紙の色や質感を生かしているいろと試しながら、思いに合わせて表し方を工夫して表す場面において、形や色などによる組合せの感じに着目している」などの姿を「おおむね満足できる」状況として把握した。

「主体的に学習に取り組む態度」は、「知識」で捉えた姿と関連付けて、つくりだす喜びを味わい進んで染めた和紙で花を工作に表す学習活動に取り組もうとしている様子を「おおむね満足できる」状況として、主に、観察、対話、作品、作品カードから把握した。

観察では、「黄緑色と水色の和紙を使って花をつくり、重ね合わせて新たな形になるようにしている」、「花の色と真ん中の丸い形の色が合うように組合せを考え、全体が明るい感じになるようにしている」など、形や色などによる組合せの感じに着目して進んで表している姿から捉えた。作品からは、作品全体の印象だけでなく、作品の部分にも着目し、形の感じや色の感じ、組合せによる感じなどを捉えながら主体的に学習に取り組んでいるかどうかを捉えた。例えば、「玄関に合うように山吹色をつくらうとしている」「淡い色を生かしてふんわりした感じの丸い形をつくらうとしている」「全体が明るい感じになるように、和紙の色の組合せを考えて表そうとしている」などの姿から捉えた。

（３）「技能」と「主体的に学習に取り組む態度」

「技能」については、「花を見る人のことを思い、どんな心を込めたいのかを確かめながら、手や体全体を十分に働かせて材料や用具を扱っている」「表したいことに合わせて、和紙を手でちぎったり、はさみで切ったり、折ったり丸めたりしながら、組合せ方やつなぎ方を工夫して表している」などの姿を「おおむね満足できる」状況として把握した。

「主体的に学習に取り組む態度」は、「技能」で捉えた姿と関連付けて、つくりだす喜びを味わい進んで染めた和紙で花を工作に表す学習活動に取り組もうとしている様子を「おおむね満足できる」状況として、主に、観察、対話、作品、作品カードから把握した。観察では、「表したい形になるように、手を動かして何度も和紙を握ったり折ったりして、いろいろな花の形を試しながら工夫して表すことに進んで取り組んでいる」「太陽のような明るい花になるように回りは細い紙を使って工夫して表すことに進んで取り組み、つくりだす喜びを味わっている」などの姿から捉えた。作品からの評価では、作品全体の印象だけでなく、作品の部分にも着目し、材料や用具をどのように使っているか、思いをもって工夫して表しているかなどを具体的に捉えた。例えば「和紙のいろいろな表し方を組み合わせて表そうとしている」「紙類や絵の具についての経験を生かして表そうとしている」などの姿から捉えた。

（４）「思考・判断・表現（鑑賞）」と「主体的に学習に取り組む態度」

「思考・判断・表現（鑑賞）」については、「友人と話し合いながら自分の作品を見て、花の形の面白さ、表し方のよさを感じ取っている」など姿を「おおむね満足できる」状況として把握した。

「主体的に学習に取り組む態度」は、「思考・判断・表現（鑑賞）」で捉えた姿と関連付けて、つくりだす喜びを味わい進んで鑑賞する学習活動に取り組もうとしている姿を「おおむね満足できる」状況として、主に、観察、作品、作品カードから把握した。

観察では「友人の作品を見て色の生かし方や花の形の面白さを感じ取ることに、進んで取り組もうとしている」「自分の作品と友人の作品を比べて感じ方を広げることに進んで取り組もうとしている」などの姿から捉えた。また家に飾ることや家の人に見てもらうことを楽しみにして活動している様子からも、主体的に学習に取り組んでいる姿を捉えた。

各場面において、「本題材に興味や関心をもてず、主体的に取り組もうとしていない」、「和紙を触っているが、どんな形にしようか決められず、活動が停滞している」、「花を立たせようとしたが思ったように立たず、投げやりになっている」、「発想や構想することに対しては主体的に取り組むことができたが、技能を働かせる段階では主体的に取り組むことができない」など「努力を要する」状況（C評価）の児童には、「知識・技能」、「思考・判断・表現」の視点で児童の姿を見直し、つまづいている点を把握し、指導をする必要がある。その上で、どこに花を飾る予定かなどを問いかけて、作品ができあがることに期待をもつようにする、これまでの活動を振り返り、見直しをもつようにするなど、自己の学習を調整し、粘り強く取り組むことができるようにした。

このように、「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、「知識・技能」「思考・判断・表現」と関連付けて評価することが大切である。また、「主体的に学習に取り組む態度」の視点で、観察や対話などによって捉えたことを基に、その場で称賛や励ましを行ったり、指導に生かしたりするなど適切な指導を行うことにより、さらに主体的に学習に取り組むことにつながる。

本事例は、「主体的に学習に取り組む態度」についての事例だが、「学びに向かう力、人間性等」は、第一編（P.8）には次のような説明がある。

観点別学習状況の評価や評定には示しきれない児童生徒一人一人のよい点や可能性、進歩の状況については、「個人内評価」として実施するものとされている。改善等通知においては、「観点別学習状況の評価になじまず個人内評価の対象となるものについては、児童生徒が学習したことの意義や価値を実感できるよう、日々の教育活動等の中で児童生徒に伝えることが重要であること。特に『学びに向かう力、人間性等』のうち『感性や思いやり』など児童生徒一人一人のよい点や可能性、進歩の状況などを積極的に評価し児童生徒に伝えることが重要であること。」と示されている。

教科の目標や学年の目標、題材の目標として示している「学びに向かう力、人間性等」と、評価規準で設定している「主体的に学習に取り組む態度」とを照らし合わせるなどして、観点別学習状況の評価や評定には示しきれない児童一人一人のよい点や可能性、進歩の状況について、児童に伝えていくことが重要である。